編集者への手紙

「頭部MRAスクリーニングのあり方」に関する再度の質問について

日本磁気共鳴医学会・頭部スクリーニング検討委員会委員長

古瀬和寛

編集委員長板井悠二先生

学会事務局より本田憲業先生からの再度の手紙についての連絡をいただきました．

先回の〝「頭部MRAスクリーニングのあり方について」を質す〟についての回答として掲載させて頂いた手紙[1]をお読み頂いた上で，今回再度本田先生から寄せられた「編集者への手紙」[2]は，

1．頭部MRAスクリーニングの際の被検者への事前説明の内容についてのガイドラインを明示し，このことを含めて「頭部MRAスクリーニングのあり方」[3]（以下「あり方」）の続編をMRA委員会としてまとめて公にすること，そして

2．当MRA委員会が頭部MRAスクリーニングや脳ドックについて無作為対照研究を行うこと，について要望していると理解しました．

このことについて現MRA委員会の全メンバーに資料を送りまして意見を聞かせて頂いた上で，以下のようにご回答申上げる次第です．

まず，日本磁気共鳴医学会MRA委員会はその成立の過程や与えられた任務などから明らかなように頭部MRAスクリーニングに関連する課題についての研究，諮問等のための委員会で，脳ドックなどのいわゆる検診の実行組織ではありません．この点を基本的立場としてご理解頂きたいと思います．

そこで，要望の第一点については，「あり方」に示されている被検者への対応についての考えを実際の診療の場に生かしすすめることで解決を図って頂きたくおもいます．また，「あり方」の続編については，今後の検討が深まった段階で考慮すべきものと考えておりますが，現段階でただちに続編を出すことが必要とは考えておりません．

質問第二点の無作為対照研究の施行については，当MRA委員会の行うべき任務ではないと考えます．

別に日本脳ドック研究会とは検診のあり方等について意見交換等を行ってきており，日本脳ドック研究会事務局は独自にすでに1年前より症例登録とその追跡事業を行っており，その結果が注目されておりますことを付記させて頂きます．

また，当MRA委員会あるいは調査小委員会として，MRAスクリーニングの現状，費用効用分析およびリスク利益分析についての調査研究を皆さんの協力のもとに行うことを現在企画中であることも申し添えさせて頂きます．

簡単ながら以上で今回の手紙は終わらせて頂きますが，MRAスクリーニング，脳検診については一層社会的注目も高まっており，本学会員

1995年9月21日受理

からの一層の建設的，真摯なご討議，提案をひきつづきお願いしたく存じます．

文　　献

1) 古瀬和寛：〝「頭部スクリーニングのあり方について」を質す〟についての回答として．日本磁気共鳴医学会雑誌，15 (2) 62-63, 1995.
2) 本田憲業：編集者への手紙，頭部 MRA スクリーニングの有効性を検証すべきである．日本磁気共鳴医学会雑誌，15 (5) 185, 1995.
3) 頭部 MRA スクリーニング検討委員会報告(5)：頭部 MRA スクリーニングのあり方について．日本磁気共鳴医学会雑誌，14 (8) 422-428, 1994.